

「母さん助けて詐欺」を防げ 警視庁が自動録音機を無料配布

NPO法人パオッコ
「離れて暮らす親のケアを考える会」

太田差恵子

「振り込め詐欺」の呼称は、警察庁が平成16年に決めたもの。孫や息子になりすまして電話する「オレオレ詐欺」に続き、架空請求や公共料金の還付名目などの詐欺が多発。これらの詐欺の総称として生まれました。金融機関の口座に現金を「振り込ませる」という手口が名称の由来です。

ところが、最近では都内の被害の7割以上が「手渡し型」に。そこで、警視庁は「振り込め詐欺」に代わる新名称を公募。最優秀作品として「母さん助けて詐欺」が選ばれました。

最近では、「オレだけど」と名前

を言わないものだけではなく、高校の卒業生名簿などのリストを使い、犯人が息子や孫の名前や職場の情報などを知っているケースが多くなっています。騙す手口が巧みになり、被害件数も被害額も増加の一途です。

●警告メッセージを発し 会話を自動録音

被害を未然に防ごうと本年4月より警視庁が始めたのが、電話での会話を自動録音する「自動通話録音（警告）機」1万5千台の東京都内の高齢者宅への無料貸し出しです。全国初の取り組みで、対象は東京都内の65



絵・いしだみな / 機カトウプロ

詐欺の電話がかかってきた場合は、通報を受けて警察官が家人や関係者の立ち会いのもと、犯人側との通話内容のみ聴取。音声内容を分析して、犯行グループの実態解明や犯人の特定などに活用します。

機器の設置は警察官が直接設置に訪問。機器料金は無料です。電話機や電話回線によって、取り付けできない場合があります。申し込み、問合せは、管轄の警察署まで。

●日頃の親子の対話が 被害を防ぐ

警視庁では、30代から40代の若い世代に向けて「自分の親を詐欺被害から守る」、「家族の財産は、家族で守る」という意識を持つことを奨励。少なくとも週1回は親に電話を掛けて定期連絡を行うことを勧めています。その際、冒頭に「合言葉の掛け合い」を行うことでいざという

表 高齢詐欺被害者の調査結果

	人数	%
--	----	---

●被害者の性別

女性	257	80.8
男性	61	19.2

●被害者の年代

60代	72	22.6
70代	163	51.3
80代	82	25.8
90代	1	0.3

●被害者の居住状況

夫婦2人	117	36.8
一人暮らし	99	31.1
家族（配偶者以外）と同居	81	25.5
その他	9	2.8
空白	12	3.8

●過去に振り込め詐欺を始めとする被害に遭った経験

なし	278	87.4
ある	12	3.8
不明	14	4.4
空白	14	4.4

●過去に訪問販売においてトラブルになった経験

あり	14	4.4
なし	268	84.3
あり	14	4.4
不明	24	7.5
空白	12	3.8

●詐欺被害に対する認識

自分は大丈夫だと思っていた	252	79.2
考えたこともなかった	42	13.2
騙されるかもしれないと思っていた	7	2.2
不明	2	0.6
空白	15	4.7

●被害者の判断能力・記憶力（対応した警察官の印象）

問題なし	209	65.7
やや不安が感じられた	85	26.7
不安が感じられた	11	3.5
空白	13	4.1

●家族からみた被害者の判断能力・記憶力

大丈夫だと思っていた	117	36.8
考えたこともなかった	37	11.6
騙されるかもしれないと思っていた	9	2.8
空白	155	48.7

（出典）警視庁「平成24年5月～7月に認知した高齢詐欺被害者318名及びその家族に対する調査結果」

時に被害を防ぐことに役立ちます。

さらに、電話帳に電話番号が

載っているときは削除依頼をす
る、子の勤務先の電話番号を親
に教えておくことも効果的だとい
います。もし、「携帯電話をな
くした」、「番号が変わった」とい
う電話を受けたら、元の番号に
掛け直すか、勤務先に確認の電
話を掛けるよう親へ伝えておき
ます。また、日頃から、騙しの
手口を親へ伝え、自分ならその

ようなことは絶対にしなないとい
うことを言うておくことも大切
です。

●自分は大丈夫だと思っ
ていても被害者になっ
てしまう

警視庁が詐欺の被害にあつた
人の状況を調査（昨年5～7月
の被害者318人を対象）した
ところ、次のような特徴があり
ました（表参照）。

- 被害者の約8割は女性。
- 被害者の約5割は70歳代。

- 被害者の約7割が夫婦2人又
は一人暮らしで居住している。
- 過去に詐欺被害にあつた経験
がある者は約4%。
- 過去に訪問販売でトラブルに
なつた経験がある者は約4%。
- 詐欺被害に対する認識につい
て、「自分は大丈夫だと思つてい
た」「詐欺について考えたことも
なかった」と答えた者はあわせ
て9割以上。
- 対応した警察官の印象では、
被害者の判断能力・記憶力につ

いて「問題なし」が6割以上。
●家族からみた被害者の判断能
力・記憶力は、回答のあつた1
63人の家族の9割以上が「大
丈夫だと思つていた」または「考
えたこともなかった」と回答。
このように「自分は大丈夫」
と思つていても被害者になつて
しまう親世代が後をたちません。
「自動通話録音（警告）機」の設
置により、被害件数が減少する
ことに期待したいものです。